

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                      |            |  |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 0572308567           |            |  |
| 法人名     | 株式会社 日本ケアシステム        |            |  |
| 事業所名    | グループホーム しらさぎ苑        |            |  |
| 所在地     | 秋田県潟上市飯田川飯塚字塞ノ神143-3 |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和2年8月27日            | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                        |  |  |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会 |  |  |
| 所在地   | 秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1   |  |  |
| 訪問調査日 | 令和2年9月16日              |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域行事に積極的に参加していて、地域住民からの協力も得られている点。</li> <li>●本人と家族をつなぐ役割を強く意識している点。</li> </ul> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

|  |
|--|
| <p>新型コロナウイルスの影響で面会、交流が難しい状況ですが、通常であれば地域との連携や交流を積極的に図り、利用者が地域と繋がりがながら普通に暮らしていけるホームづくりに取り組んでいます。面会や外出を制限している現状の中で、職員は利用者がホームで楽しく過ごせることを話し合いながら実践しています。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 54 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 61 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 55 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 62 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 56 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 63 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 57 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 64 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 58 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 59 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 60 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                        | ホールや事務所など、職員全員の目の止まる場所に基本理念を掲示し共有している。  | あらためて理念について話すことはありませんが、さまざまな制限がある中で、安全で楽しい生活に繋げるためにアイデアを出し合い、検討しながら利用者のホームでの暮らしを支えています。         |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 新型コロナウイルスの影響で、地域とのつながりが減少している。  | 外出を自粛しているため、以前のように交流する機会はありませんが、地域の方が現状を心得て対応してくれており、新型コロナウイルスが終息した時には日常的に交流できている状況に戻るものと思われます。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域とのつながり<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している                    | 新型コロナウイルスの影響で、地域貢献できる場が減少している。  |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 新型コロナウイルスの影響で、本年度の運営推進会議は全て中止している。その代わりとして、文書による報告を行っている。(報告先は市役所、町内会長、民生委員、入居者家族としている) | 会議開催が可能であった時期には行政の参加が不定期でしたが、地域の方の参加があり、ホーム及び利用者が地域と関われるよう積極的に発言し、サービスの向上に活かされています。             |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 書類等の受け渡しの際には、郵送ではなく直接役所へ伺うようにし、顔の見える関係作りに努めている。   | コロナ禍にあつてケア会議の開催もなく、特に支障はないものの、提出物は窓口を持参し、関係構築に努めています。   |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎月のカンファレンスにあわせて、身体拘束適正化委員会を開催し、拘束の抑制に努めている。   | カンファレンスで身体拘束について話し合っており、職員は拘束のないケアに意識的に取り組んでいます。特にスピーチロックについては時間をおかずに対応できるよう努めています。             |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 高齢者虐待に関する事業所内研修を実施している。   |   |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している           | 日常生活自立支援事業や成年後見人制度の事業所ない研修を実施している。  |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                                | 利用契約時やその前段階から、口頭や文書で分かりやすく説明をし、理解・納得をもらっている。  |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                            | 利用者・家族ともに、積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望をしやすい関係作りに努めている。<br>面会制限時にも定期的に電話連絡を行っている。                        | 面会を制限しているため、現状では電話で連絡を取り合っています。より家族の意見を引き出すことを今後の課題として対策を検討しています。  |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | 会議・カンファレンス等以外の通常業務においても、職員それぞれが意見しやすい関係作りに努めている。<br>新型コロナウイルスの影響で、会議の開催が困難な場面も多いので、書面による提案も行っている。 | 職員は会議で意見交換する代わりに提案書で意見を上げている他、日常業務で気づいたことを都度話し合いながら反映できるように努めています。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている             | 代表者は、職員一人ひとりの状況を正確に把握しており、それぞれに合わせた対応をしている。   |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | 代表者は、積極的な研修への参加を奨励している。   |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との会合へ参加し、情報交換することでサービスの向上を図っている。   |  |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |  |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前段階で、利用者から困りごと・不安点・要望を聞き、それを基に支援方針を決定している。<br>普段の何気ない声掛けを通して、一人ひとりの要望に耳を傾けるよう努めている。 |  |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 要望等には耳を傾け、なるべく沿うように努めている。<br>合わせて、当苑では対応困難なことについてははっきりと伝えるようにしている。                    |  |                   |
| 17                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 空間を共有することで、暮らしをともにする者同士の関係構築に努めている。   |  |                   |
| 18                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族に対しては、日常の良い部分だけを伝えるのではなく、介護を提供する上で困難な状況も伝えることで、本人を支えていく手伝いをしてもらっている。                |  |                   |
| 19                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 本人との会話を通し、馴染みの場所の把握に努め、外出の際の参考にしているが、現在のところ外出を制限しているため、関係の継続支援が困難になってきている。            | 外出、面会の制限があるものの、贈り物にお礼状を書いて家族に喜んでいただき、その関係継続に配慮しています。刺し子をしていた利用者は家族と職員のマスクをつくり、得意なことが生活の中で活かされています。 |                   |
| 20                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 日中はなるべく自室に籠ることを無いうように、共有スペースに招くよう声掛けしている。<br>共有スペースでは、利用者同士の会話が弾んでいることが多い。            |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|------------------------------------|------|---|--|---|--|
|                                    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容                                    |
| 21                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている             | 退居後も、退居先での生活が落ち着くまでこまめに電話するなど、相談・支援に努めている。                       |   |  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |  |   |  |
| 22                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                    | 本人が声にして出す希望だけではなく、隠された思いも把握できるよう、職員間で情報を共有している。                  | 利用者との会話等、日常の関わり合いの中で意向を把握し、暮らしに取り入れることができるよう取り組んでいます。 |  |
| 23                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                           | これまでの生活の仕方や経過等の情報を、利用者や家族から提供してもらい、介護計画に反映させている。                 |   |  |
| 24                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている  | 日々の関わりの中で、変化を見逃さないように観察し、利用者の状態の把握に努めている。                        |   |  |
| 25                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 課題については、なるべく家族と話し合うことで、職員だけの問題にならないように努めている。それを踏まえて、介護計画を作成している。 | 担当職員及び他の職員の意見を聞き、介護計画の作成に活かしています。家族の意向も反映させています。      | ICT(電子媒体)の活用による業務の軽減、利用者 と接する時間の増加のための取り組みの推進を期待します。 |
| 26                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                 | 個々のノートに毎日の経過を記録し、日々の変化を見逃さないように、職員間で情報を共有している。                   |   |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                               |
|----|------|---|--|---|-------------------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容             |
| 27 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している  | 町内会を中心に、地域資源の把握に努めている。   |   |                               |
| 28 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医・薬局は本人の希望するところを利用している。                                   | 運営母体以外の医療機関で継続受診している利用者もあり、それぞれの希望に応じた支援が行われています。                               |                               |
| 29 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                              | 訪問看護(1回/週)が主だが、緊急時には協力医療機関の看護師等も相談にのってくれている。                   |   |                               |
| 30 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。     | グループ内の医療機関に入院設備が整っているため、連携しやすい環境となっている。                        |   |                               |
| 31 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる      | 入居時より終末期について話をするようにしている。また利用者の状態に変化がある度に、家族等と話し合いをしている。        | 運営母体が医療機関であり、必要時には法人内の施設と連携できるよう支援体制を整えています。                                    |                               |
| 32 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 利用者の状態を普段から把握し、急変や事故を未然に防ぐように努めている。また、職員間で、応急処置や初期対応の体制を整えている。 |   |                               |
| 33 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 定期的に避難訓練を行っている。昨年10月には夜間を想定した避難訓練を実施。今年度も行う予定とする。              | 通常時の訓練では近隣の協力が得られています。職員を利用者に見立てて夜間を想定した訓練を実施した結果、多くの課題があることが職員の反省点としてあげられています。 | 夜間訓練後に発生した課題解決のための取り組みに期待します。 |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 34                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 入居者が個の空間を利用している際には、事故・急変に備えつつもプライバシーを守るように心がけている。    | 目上の人に対する配慮が職員には自然な対応として行われています。建物の構造上死角が多く、プライバシーは保たれますが、その分安全に配慮した職員の目配りが十分に行われています。 |                   |
| 35                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 本人が思いや希望を伝えやすいよう、普段から関わりを多く持っている                     |   |                   |
| 36                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはあるが、本人の希望を引き出せるように声掛けし、それに合わせて対応している。      |   |                   |
| 37                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 入居者本人による選択が難しい場合もあるが、可能な限り自己決定していただいている。             |   |                   |
| 38                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている     | 入居者の出来る能力を活かし、食事に関する作業を手伝ってもらっている。(メニュー書きやおしぼりたたみなど) | できないが増えてきていますが、できることを考えながら手伝っていただいています。畑の野菜を献立に加えたり、おやつを手作りしたりして食べる楽しみに繋がっています。       |                   |
| 39                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている    | 栄養バランスを考えた食事作りに努めている。また、水分は時間を定め、定期的に摂取していただいている。    |   |                   |
| 40                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後、本人の状態に応じて口腔ケアを介助している。声掛けにて、本人に行っていたことも多い。        |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 一人ひとりの排泄パターンを把握、職員間で共有した上で、無理のない範囲でトイレでの排泄に向け支援している。              | 自立している方もおりますが、何らかの排泄用品を使用している方もトイレでの排泄を基本に支援しています。その人に合わせて声かけや誘導が行われており、適切に支援できるよう取り組んでいます。 |                   |
| 42 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 水分摂取時、乳製品を用いることで便秘対策に努めている。                                       |   |                   |
| 43 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                   | 基本的には入浴日を定め、清潔保持に努めているが、本人の体調や気分で入浴日を変えられるようにもしている。               | 入浴は週2回を基本としていますが、そのほか状況に応じて対応しています。寝たきりの利用者にも足浴しながらシャワー浴を行って清潔保持に努めています。                    |                   |
| 44 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中を通して、いつでも休める環境づくりをしているが、同時に昼夜逆転とならないよう、声掛けし日中の覚醒を促している。         |   |                   |
| 45 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                               | お薬手帳を活用し、内服薬の理解に努めている。  |   |                   |
| 46 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 入居者それぞれが、自分に合った楽しみを見つけ生活されている。また、苑内での作業やレクも日々の生活に欠かせないものとなっている。   |   |                   |
| 47 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスの影響で、日常的な外出が大変困難になっているが、少しでも戸外へ出られるように玄関先での日向ぼっこ等を行っている。 | 外出を自粛しているため、通院後にはいつもと違う道を通る等して少しでも気晴らしができるような配慮をしています。                                      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している   | 基本的に金銭はお預かりしているが、その中から本人が使いたい場合は家族と相談の上、使用している。                             |  |                   |
| 49 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている  | 電話の希望はあまり無いが、事務的な連絡で家族に電話した際は、本人とかわり、会話を楽しんでいただいている。                        |  |                   |
| 50 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ごく普通の家庭を目指し、空間作りをしている。不快感の無いよう整理整頓に努めている。                                   | 利用者の機能やその時々状況に合わせてホールのレイアウトを変更し、建物内随所でホームの備品を上手に使用しながら安全に過ごせる環境づくりがされており、玄関は季節に応じた飾りつけがされています。 |                   |
| 51 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている   | 一人ひとりの席を決めている場所と、決めていない場所を設け、それぞれが思い思いの生活を送れるよう工夫している。                      |  |                   |
| 52 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている   | 自宅で使用していたものをそのまま持ってきていただき、住み慣れた空間となるよう努めている。また、新規に購入するものでも、入居者の嗜好に合わせ選んでいる。 | 入居時には家族とも相談しながら家具等の自由に持参したものの配置を決め、また、状態の変化に合った環境にする配慮も行われています。                                |                   |
| 53 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 環境を整えた上で、不足している部分は介護のマンパワーで補い、安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。                        |  |                   |